

茅ヶ崎市文化資料館と学校教育について

ー学習利用に関する小中学校教職員アンケート調査の報告 2013ー

須藤 格^(*)

はじめに

茅ヶ崎市文化資料館（以下「文化資料館」）には、毎年多くの小中学校による利用がある。平成24(2012)年度の総来館者数のうち、23.1%にあたる1,735人が義務教育課程にあたる小中学校の児童である。市という基礎自治体で社会教育活動を展開する文化資料館のような地域志向型の博物館にとって、学校教育への協力と連携がもつ意味と役割は大きい。

本稿は、「公共施設整備再編計画」に基づき、移転・整備が予定されている文化資料館の今後の姿を検討するにあたり、平成19(2007)年に一度行った、茅ヶ崎市内の小学校・中学校の教職員を対象とした、学校教育における当館の利用に関して行ったアンケート調査¹を再度実施した結果を集計し、考察を加え報告するものである。

1 社会教育と博物館

今回の報告を行う前に、まず、文化資料館と学校教育の関係性について概観したい。

博物館は社会教育の機関であることが博物館法に規定されている。世界的に社会教育（social education）と呼ばれているものは、開発途上国における識字率向上を意味する言葉として用いられることが多い。欧米においては、成人教育（adult education）、あるいはリカレント教育（recurrent education）と呼ばれ、生涯にわたり学習することの構成を図る生涯学習（life long integrated education）の考え方が社会に浸透している。学校教育を補完するものではなく、学校教育と対等なものとして認識され、さらに学校教育は生涯学習の基礎として位置づけられている。

日本においては、教育＝学校教育とする偏重傾向があり、社会教育との隔たりは大きい。そのため、

社会教育は学校教育の補助的・補完的教育であると認識されている感がある。これは、社会教育法第2条「社会教育の定義」において謳われている、「この法律で「社会教育」とは、学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）をいう。」という文言にも表れている。しかしながら、社会教育には、学校教育や家庭教育とは異なった視点があり、その教育原理も異なったものであると考える。

そもそも教育原理は、教育とは何かという根源に立ち返る哲学的な研究ではなく、プラグマティズムに基づく、教育の実践のために最低限必要な「心得」のことである。教育が行われるあらゆる現場における、その実践根拠と指針である。学芸員の資格取得課程において、教育原理が必須科目とされていることの理由もここにあると考える。

社会教育の教育原理は、社会教育の実践的な原理は何かということであり、それについて学校教育との対比から考えたい。社会教育は、学校教育のように特定の家庭や外的な強制によるものではなく、自ら課題を見つけ探究するという学習活動によって成立する。学習活動への参加は個人に任された自由なものである、それを利用しないことでどこからも非難されることがないのが特徴的である。また、その利用についても自由であり、学習にかけられる時間も限りはなく、その結果に対し何の資格も与えられない、全くの個人の主体性と意欲によるものである。

では、博物館における社会教育とは何かということについて考えてみたい。博物館は、調査研究をもとに、「モノ」が収集・保存され、その成果に基づ

き展示・ワークショップといった教育活動を展開することが役割である。博物館は、それぞれの専門とする分野に関して、地域に立脚する博物館の場合は特にその地域について、広く深い視点で探求し、収集した実物資料である一次資料、もしくは模写・複製等の二次資料を保存し、来館した学習者がその興味関心にあった学習ができるよう展示を行うことに努めている。このことから博物館の社会教育の最大の特色は、「展示」にあると考える。

展示されているモノを観察し、その背後にあるコト（情報）を認識することで学習が発生する。展示とは、その言葉のとおり、モノを陳列し、モノとモノに関連性を持たせ、提供し見せることを通じて、歴史や自然、文化を体験的に学習することを補助、支援することが博物館における社会教育機能であり、学習の最大の特徴である。

2 学校教育と文化資料館

文化資料館のような地域志向型博物館は、とりわけ、その土地が内包する人々や文化が活動の母体であり、基点となる。

郷土としての地域社会についての展示を通じて学習機会を提供し、郷土の記憶を後世に、次世代に継承し創造の源となっていくことが使命であると考えれば、地域が内包する「モノ」と、学校教育、とりわけ義務教育課程との連続性を生み出すことの重要性は高い。展示されている「モノ」を観て、ときには触れ、感じることで直接的にそして感覚的に学んだり、教科書や写真、映像では得られないものを感じたりすることに、博物館の学校教育との関係に意義が生じると考える。

地域の博物館活動と接することから、その地域の特色を知ってもらい、自分が住まうまちの価値を発見・再発見する郷土の教育こそが、地域に立脚する博物館の唯一の存在理由であり、地域における教育の中心となり得ると考える。

たとえ、都市化が進み、地域社会の崩壊が指摘され現代にあっても、子どもたちにとって、茅ヶ崎という地域社会は、生まれ、育ち、学習し、生活する実世界的な世界である。教育の源泉たるものは郷土と

しての茅ヶ崎であることに変わりはなく、その郷土の教育を実践できるのは文化資料館以外ないと考える。



図 1 小学生の来館と展示解説



図 2 中学生の職場体験学習への協力

3 アンケート調査と結果

本調査は、平成 25（2013）年 7 月に、茅ヶ崎市内の小学校 18 校、中学校 13 校（表 1）の教職員 519 名を対象に行った。

今回行ったアンケート調査とその結果については、前回と比較することでその傾向や変化が分かるものに関しては、前回の調査結果も併せてグラフに反映し報告する。

また、アンケートの質問の内容は図 3、4 のとおりである

表 1 調査を行った小中学校と教職員数

小学校	中学校
茅ヶ崎、鶴嶺、松林、西浜、小出、松浪、梅田、香川、浜須賀、鶴が台、柳島、小和田、円蔵、今宿、室田、東海岸、浜之郷、緑が浜、汐見台 (計 19 校、277 名)	第一、鶴嶺、松林、西浜、松浪、梅田、鶴が台、浜須賀、北陽、中島、円蔵、赤羽根、萩園 (計 13 校、212 名)

図 3 小学校教職員用アンケート用紙

茅ヶ崎市文化資料館に関するアンケート (教職員様向け)

Q1 現在、担当されている学年に□してください

小学校低学年□ 小学校中学年□ 小学校高学年□

Q2 茅ヶ崎市文化資料館を知っていますか？

はい□ いいえ□

Q3 文化資料館を授業 (社会的や総合的な学習の時間等) で活用したことはありますか？

はい□ いいえ□

Q4 文化資料館が資料の貸出を行っていることをご存知ですか？

はい□ いいえ□

Q5 授業で文化資料館を活用したことがある先生にお聞きします。活用した感想は？

☐ 期待通りの学習効果を得ることができた (←Q6へ)

☐ 期待したほどの学習効果を得ることができなかった (←Q7、Q8へ)

Q6 文化資料館のどのような点が子どもたちにとってよかったと思いますか？ (複数回答可)

☐ 職員による展示解説 ☐ むかしのくらしの展示 ☐ 自然に関する展示

☐ 考古 (土器等) の展示 ☐ 展示物を実際にみながら解説を聞くこと

☐ その他 ()

Q7 子どもたちにとってよかった点、改善してほしいところはありましたか？ (複数回答可)

☐ 職員による展示解説 ☐ むかしのくらしの展示 ☐ 自然に関する展示

☐ 考古 (土器等) の展示 ☐ 展示物を実際にみながら解説を聞くこと

☐ その他 ()

Q8 どのような展示や設備、サービスがあれば子どもたちにとってよいと思いますか？ (複数回答可)

☐ 体験型の展示 ☐ 調べ学習ができる図書コーナー ☐ 映像による展示室

☐ 調べ学習への職員によるアドバイス ☐ 有料コピーサービス ☐ 休憩スペース

☐ 分野わけせずに、茅ヶ崎の歴史的な人々のくらしや自然の変遷が、様々な角度から一貫して学ぶことができる展示 ☐ 民俗、考古、自然などの分野ごとに分かれた展示

☐ 茅ヶ崎に関するさまざまな企画展示が半年毎くらいにあれば利用したい

☐ その他 ()

Q9-1 文化資料館を学校教育に利用する際の課題点を教えてください。

☐ 学校からの距離 ☐ 授業時間の関係から外に出るのが難しい ☐ 学習スペースがない

☐ 時間を掛けるほどの学習効果が期待できない ☐ 駐車場がない ☐ 展示スペースが狭い

☐ その他 ()

Q9-2 新しい資料館に対して学校教育利用以外でご意見やご提案がありましたらお教えください。

お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。

2013年7月

茅ヶ崎市教育委員会

社会教育課 茅ヶ崎市文化資料館

図 4 中学校教職員用アンケート用紙

茅ヶ崎市文化資料館に関するアンケート (教職員様向け)

Q1 現在、担任されている学年に□してください

1年生□ 2年生□ 3年生□

Q2 茅ヶ崎市文化資料館を知っていますか？

はい□ いいえ□

Q3 文化資料館を授業 (総合的な学習の時間等) で活用したことはありますか？

はい□ いいえ□

Q4 文化資料館が資料の貸出を行っていることをご存知ですか？

はい□ いいえ□

Q5 授業で文化資料館を活用したことがある先生にお聞きします。活用した感想は？

☐ 期待通りの学習効果を得ることができた (←Q6へ)

☐ 期待したほどの学習効果を得ることができなかった (←Q7、Q8へ)

Q6 文化資料館のどのような点が子どもたちにとってよかったと思いますか？ (複数回答可)

☐ 職員による展示解説 ☐ むかしのくらしの展示 ☐ 自然に関する展示

☐ 考古 (土器等) の展示 ☐ 展示物を実際にみながら解説を聞くこと

☐ その他 ()

Q7 子どもたちにとってよかった点、改善してほしいところはありましたか？ (複数回答可)

☐ 職員による展示解説 ☐ むかしのくらしの展示 ☐ 自然に関する展示

☐ 考古 (土器等) の展示 ☐ 展示物を実際にみながら解説を聞くこと

☐ その他 ()

Q8 どのような展示や設備、サービスがあれば子どもたちにとってよいと思いますか？ (複数回答可)

☐ 体験型の展示 ☐ 調べ学習ができる図書コーナー ☐ 映像による展示室

☐ 調べ学習への職員によるアドバイス ☐ 有料コピーサービス ☐ 休憩スペース

☐ 分野わけせずに、茅ヶ崎の歴史的な人々のくらしや自然の変遷が、様々な角度から一貫して学ぶことができる展示 ☐ 民俗、考古、自然などの分野ごとに分かれた展示

☐ 茅ヶ崎に関するさまざまな企画展示が半年毎くらいにあれば利用したい

☐ その他 ()

Q9-1 文化資料館を学校教育に利用する際の課題点を教えてください。

☐ 学校からの距離 ☐ 授業時間の関係から外に出るのが難しい ☐ 学習スペースがない

☐ 時間を掛けるほどの学習効果が期待できない ☐ 駐車場がない ☐ 展示スペースが狭い

☐ その他 ()

Q9-2 新しい資料館に対して学校教育利用以外でご意見やご提案がありましたらお教えください。

お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。

2013年7月

茅ヶ崎市教育委員会

社会教育課 茅ヶ崎市文化資料館

アンケート調査結果を下記のとおり集計した。
また、前回調査との比較を行うため、前回の数値
を（ ）で記す。

1) 文化資料館の認知度について

	小学校	中学校
知っている	82%(95%)	88%(86%)
知らない	18%(5%)	12%(14%)

3) 資料貸出に関する認知度について

	小学校	中学校
知っている	36%(45%)	31%(31%)
知らない	63%(55%)	69%(69%)

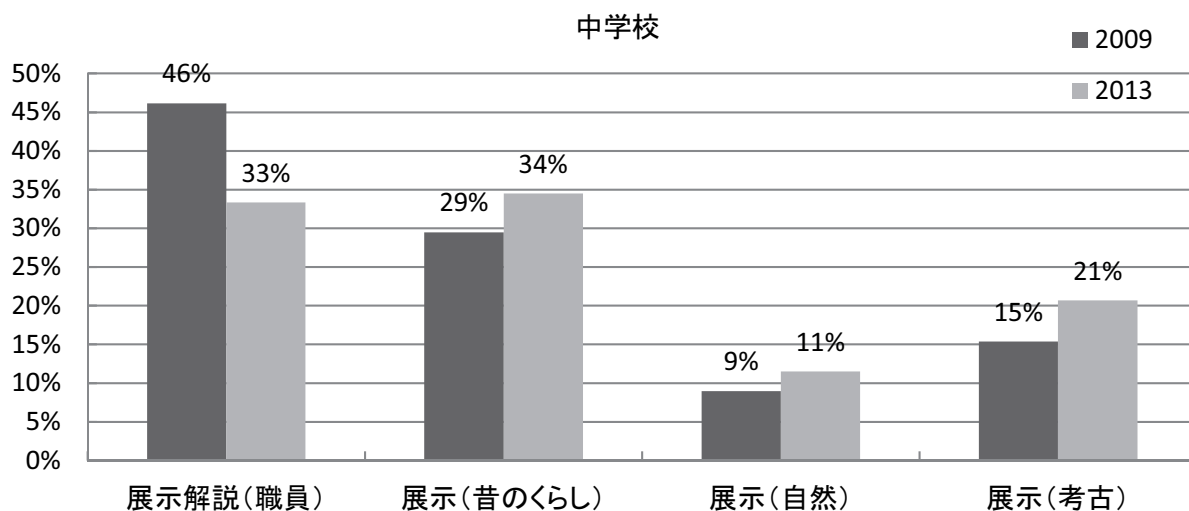
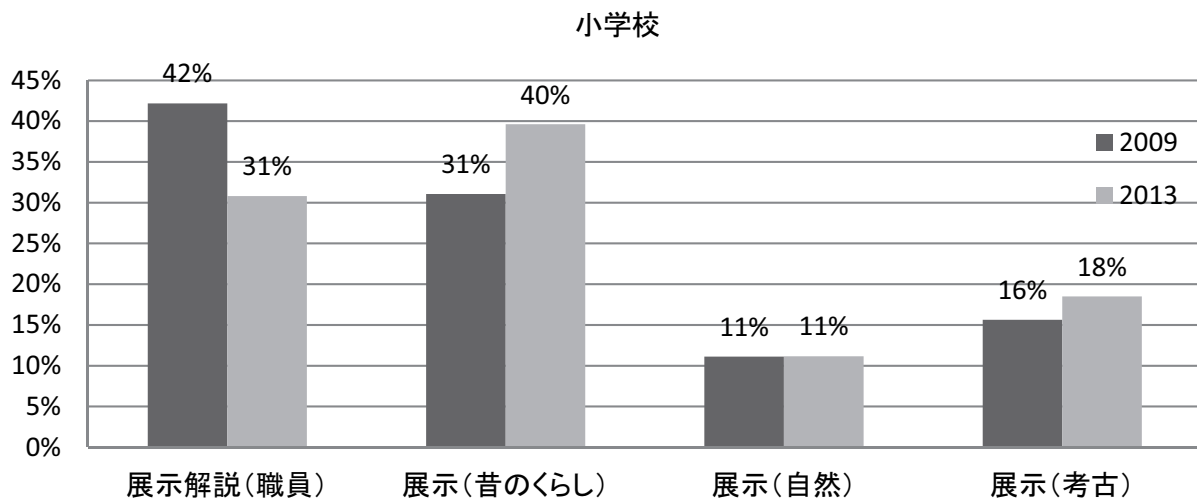
2) 利用（活用）経験について

	小学校	中学校
あり	39%(54%)	29%(28%)
なし	62%(46%)	71%(72%)

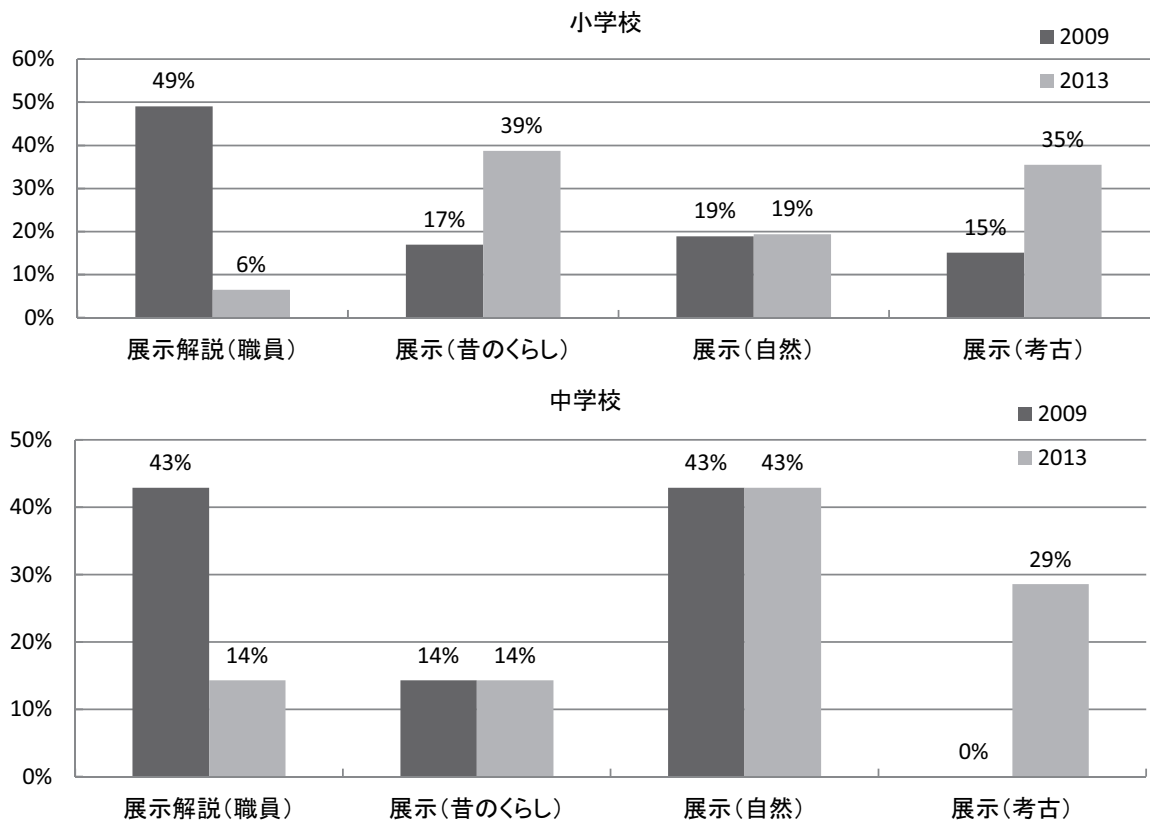
4) 学習効果について

	小学校	中学校
学習効果あり	90%(90%)	82%(90%)
〃 なし	10%(10%)	18%(10%)

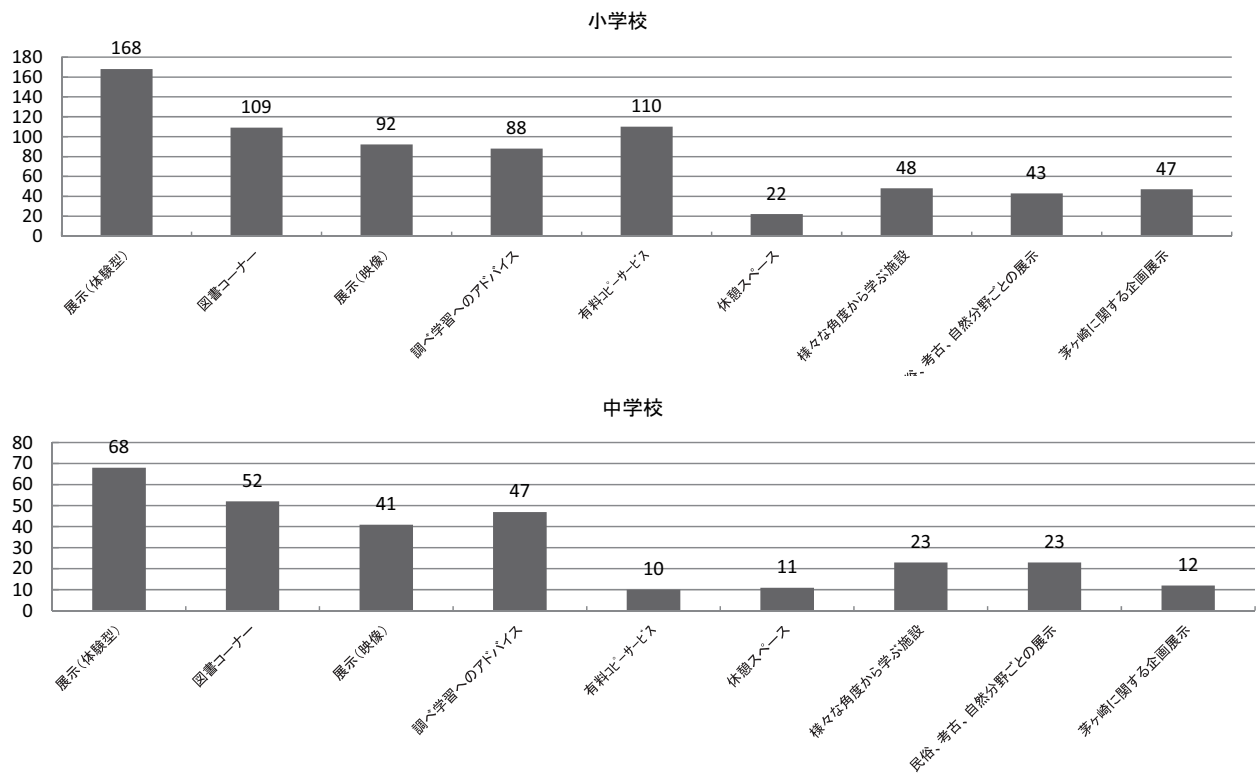
5) 利活用してよかった点について



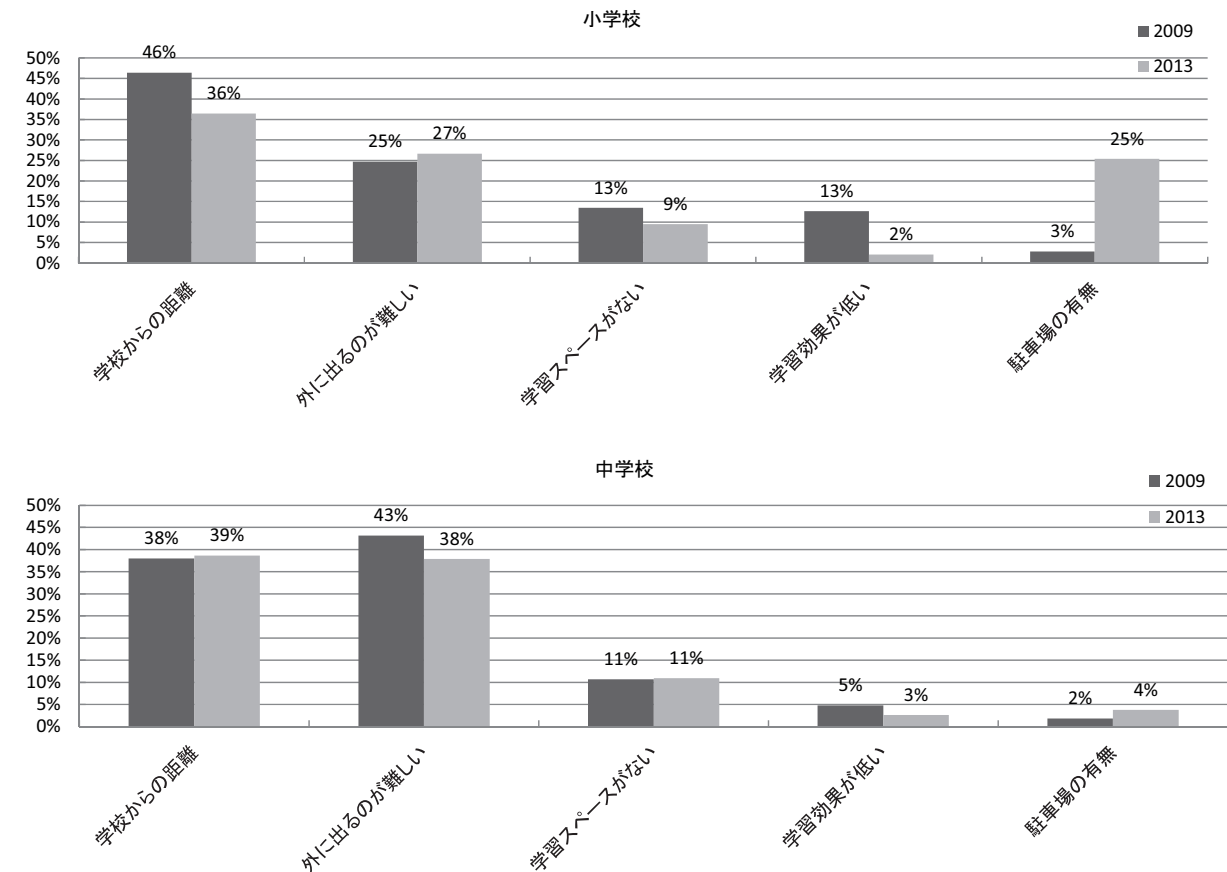
6) 改善してほしい点について



7) 望ましい機能について



8) 学校が利用するにあたっての問題点について



9) その他の具体的意見・提案について

○小学校教職員からの意見・提案（抜粋）

学習効果について	・自然観察の指導員として地域で話を聞くことができた。 ・直接職員の方に解説して頂くことでさらに子ども達は関心をもてました。 ・実際にベルをならすことができ、子どもたちにも印象に残った様だ。
施設	・バスの駐車スペースを確保して下さい。そうしないと学校では利用が進まないと思います ・以前3クラスで行ったが、一度に見られなかったので時間差で見た。外で待ったが時間をもてあましてしまった。 ・せまいので、1クラスずつしか入れず、公園で待っているのがいつも困っている。 ・2学級ずつ程度しか入れないので、残り学校を公園でまたせていたので、大きいスペースがあればと思う ・中学年の地域学習として、バスでまわる市内めぐりプランの1つに組み込み、2クラス文化資料をみている間に別のクラスが見学できる場所があるとよい。 ・昨年度3年生1学年で見学しましたが、展示スペースの関係で100名あまりの子どもたちが見学するには狭く感じます。是非移転後の新館には十分な広さを期待しています。 ・3クラスぐらいの子ども達(100名強)が入っても大丈夫ぐらいの広さがあると良いのですが ・展示見学スペースが狭いため4クラスの見学が難しい。 ・一学年(150名ぐらい)を見学や学習につれて行けるといいと思います。 ・子どもたちが資料を見て感動したことをすぐに書きとめられるよう広めの学習スペースを設けて頂きたい。あとスケッチがしやすいように提示物を置く間隔を広めに取ると更に良いのではないかと思います。 ・トイレスペースがもう少しほしいです。 ・カフェ、ショップなどがあるとよい。
アクセス	・社会見学等での利用になると思うので、周りに他の施設があると利用しやすいです。 ・新しい資料館は遠くなるので、どのように昔のくらしなどで活用していくか考えなくてはならない。せっかくなので活用していく方向で検討はしたい。 ・近所の学校の時はよく活用できたのですが、遠いと活用しづらい。 ・文化資料館近くの学校にとっては(茅小、西小)とても(歩いていける)他の学校にとっては行くのに時間がかかる。
出張授業について	・去年出張授業をお願いしました。昔の道具を実際に見せていただき、職員の方のお話が分かりやすくよかったです。子ども達だけでなく、地域の方たちも気軽に入れて見学できたと思います。 ・遠い学校には出張授業がとてありがたかったです。今後も様々なテーマでお願いしたいです。 ・出張授業を行ってもらえることを知らなかったので利用してみたいと思います。 ・利用したのは随分前でしたので、出張授業のことは知りませんでした。実際の授業の様子や内容などが知ることができれば、今後距離のある学校でも利用できるのではないかと思います。
展示	・展示だけでなく、子どもが触ったり体験できたりするものがあるといい。 ・実際に体験できるということはとてもよいと思います。 ・展示をただ見るだけでなく体験ができると学習意欲が高まると思います。たとえば火おこしなど…縄をうなど…むしろあみなど… ・職員の方の解説が大変勉強になった。 ・バードカービング、虫の展示など良かったです。 ・展示物が少ない。 ・展示物が見にくくて興味を持ちにくい。 ・展示物の並べ方の工夫などしてほしい。 ・大人向けの展示をしていたので、子どもたちにとって難しかった。 ・展示の解説を中学年ぐらいでも理解しやすいものにしていただけたとよい。 ・むずかしい漢字、字が細かいので、わかりやすいボード1枚でもあれば…と思う。 ・3年の市内めぐりと重ねて利用したのですが、もう少し3年生向けの内容を吟味してほしい。 ・茅ヶ崎市については3学年で学ぶため、学習に即した展示などがあればいいと思います。他の学年でたずねる機会というのがなかなかとれない分、その点に重きを置いてくださるといいなと思います。 ・3年生の昔の暮らしの学習有効な資料がたくさんあるので活用したいです。 ・下寺尾周辺の遺跡群などは重要な貴重な遺跡なので展示を充実させて欲しいです。 ・茅ヶ崎市民としては、さまざまな企画展が定期的にあるとありがたいです。以前広報を見て、企画展に行こうと思ったら期間が終わっていて残念に思った事があります。企画展の期間ももっとゆとりとっていただけたらありがたいです。 ・特別展示が毎回良いと思います。

○中学校教職員からの意見・提案（抜粋）

学習効果について	・中学校は一学年の人数・1クラスの人数が多いので、全クラスのかたよりの学習を考えると貴館の利用は難しいものがあります。 ・総合学習の個人学習の際、利用した生徒がいたが、それ以外は利用したことがない。中学生にとっては、利用の仕方が難しいと思う。 ・今のところ利用の必要性のある授業内容が展開されていないため(英語科)、子どもたちに利用を促すチャンスがない。 ・授業の必要性を感じない。 ・職場体験で実際に体験しながら教えていただいた事。 ・校外学習をしていただき、地域について良い学習になりました。 ・生徒たちの質問にも答えていただけてよかったです。 ・職員の方に、生徒の課題についての説明や資料提示していただいた。大変役立った。 ・資料館から出している資料が活用できるところが子ども達にとってよかった。 ・資料をお借りして、有効活用できた。 ・総合的な学習の時間帯での個人課題に対しての資料提供や説明があるとありがたい。
施設	・駐車スペースがあれば、より利用しやすいと思います。 ・スペースがあると良いと思いました。 ・もう少し明るい、入館しやすい雰囲気になるといいと思います。 ・施設そのものが古くて。子どもたちがワクワクするようなスペースにしてほしい。 ・新しい資料館を作るとしたら、ぜひ学芸員の意見を反映させた展示室や大きな収蔵庫を作られるといいと思います。 ・障害者トイレ・スロープ等の設置があると良い。 ・トイレが使いにくい。 ・休憩・飲食スペースもあうと良いと思います。 ・外で休憩スペースなどゆったりとした雰囲気であるといいと思います。
アクセス	・北部に移転すると、小学校はともかく、より一層中学生は行かなくなるかと思いますが、でも良い物をつくってほしいと思います。 ・アクセスをよくしないと来館者が多くのぞめないのでは？
展示	・体験コーナーや映像を使った展示クイズ形式での解説、えぼし麻呂が紹介するのでもいいかもしれません。 ・見学用機材の工夫(ワイヤレスレシーバー・イヤホン・プースごとの説明放送など) ・話と写真のみの開設で、内容が難しくなってしまった事。 ・ここ数年は利用していないのでわからないが、展示全体が暗い感じがする。 ・2階の展示がさみしい。 ・展示点数が少ない。 ・見るだけでなく、時代背景等もわかるとよい。 ・市民や他地区の方が茅ヶ崎の今昔についてよくわかるスペースになるとうれしいです。

4 アンケート調査結果のまとめ

調査結果から観察できる事実や課題を列記す

る。

- ・認知度は、前回に比べ減少しているものの、小中学校ともに高い。
- ・利用したことがある教員は小学校では 39%と半数以上にのぼるが、中学校に関しては 29%と少ない。その理由として、アクセスの悪さが指摘されている。
- ・前回調査時には、小学校の利用経験が 54%であったが、本調査では 15%減となっている。
- ・資料貸出の認知度は小中学校ともに低い。貸出資料のリスト作成が期待されている。
- ・小学校においては、来館することによる、地域に関する学習の効果が高いことは感じているが、授業時間とアクセスの問題から、あえて授業に活用しない場合が多い。
- ・来館してよかった点では、職員による資料の解説を聞きながらの観覧による学習効果があげられている。また、より多くのハンズオン展示が希望されている。反面、学芸員による解説の力をより高いレベル(学習内容にあった展示解説)が期待されている。
- ・求められている機能として、体験型の展示、映像等を用いた視聴覚展示、調べ学習が行える図

書コーナーの設置があげられている。

- ・小中学校が授業に利用するにあたっての問題点として、アクセス、駐車場がないこと、展示スペースの狭さ、資料点数の少なさ、学習スペース・休憩スペースの欠如が多く指摘された。

5 まとめ

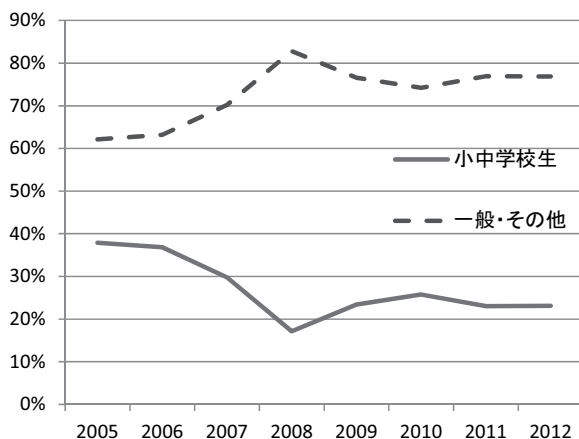
カントは、「人間は教育が人間から作り出したものに他ならない。注意すべきことは、人間によってだけ教育されるということ、しかも、同じように教育された人間によってだけ教育されるということである」¹¹ (カント『教育学』)と述べている。教育は、人間にとって根源的な課題であり、過去の伝達であり、未来への継承でもある。そして、外部から与えられるものだけでなく、内部にある可能性を伸ばし、育み、より良い人間形成と社会形成にその目的性がある。

博物館という社会教育の装置は、今日その存在理由と意義について岐路に立っていると考える。博物館というものが社会にとって必要とされ、モノを媒介としてコトを伝え、新たな価値創造へとつながる社会教育機関である続けるヒントが、学校教育との協力・連携の模索、構築にあると考える。

近年、増加している来館者数に比べ、来館者数に占める小中学生の割合は総合的な学習の時間が進められた時期に比べ大きく減少した。市の人口における、15歳未満の人口は平成7年以降現在まで、約33,000人と横ばいであるにも関わらず、来館者割合が減少したということは、小中学生の利用が減っていることを示している。今回の調査では、利用が減少している原因の一部を把握することができたと考える。

一方、市の総人口の3割以上を60歳以上が占めておりⁱⁱⁱ、今後超高齢社会を迎える中で、次世代育成を考える重要性は非常に高いと考える。

表2 来館者数における小中学生の割合



本アンケート調査でいただいた、貴重な教職員の方々の現場の生の声を移転・整備を控える文化資料館の課題として捉え、今後の地域社会における博物館活動に反映し、具現化することで、郷土を学び、このまちの未来を担っていく子どもたちの形成に寄与できるよう、新たな博物館づくりを推進していきたいと考える。

さいごに、多忙を極める学校運営の中、本アンケート調査に協力いただいた市内小中学校の教職員の方々に、心から御礼申し上げます。

* 茅ヶ崎市教育委員会社会教育課文化財保護担当茅ヶ崎市文化資料館

参考文献・資料

- 加藤有次「博物館学概論」雄山閣, 1996
 加藤有次ほか「新版・博物館学講座第1巻 博物館学概論」雄山閣, 2000
 鈴木真理「改訂 博物館学概論」樹村房, 2004
 全国大学博物館学講座協議会西日本部会「新しい博物館学」芙蓉書房, 2008
 倉田公裕・矢島國雄「新編 博物館学」東京堂出版, 1997
 上山信一・稲葉郁子「ミュージアムが都市を再生する」日本経済新聞社, 2003
 P. ラングラン「生涯教育入門」全日本社会教育連合会, 1981
 「公共施設整備再編計画」茅ヶ崎市, 2012

i 「茅ヶ崎市文化資料館調査研究報告19」茅ヶ崎市教育委員会, 2010

ii エマニュエル・カント「教育学」理想社, 1965

iii 平成26年3月1日における市の統計による。